

読

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

響

人知を超えた、 至高の ブルックナー。

80歳の巨匠が、遂に“約束”を果たす。

妥協のない音楽作りで聴衆を魅了し、
更なる芸術性を追求する孤高のマエストロ

飯守 泰次郎

指揮

TAIJIRO IIMORI, Conductor

モーツァルト

交響曲第35番 二長調「ハフナー」K. 385

MOZART: Symphony No. 35 in D major, K. 385 "Haffner"

ブルックナー

交響曲第4番 変ホ長調「ロマンティック」(ノヴァーク版 第2稿)

BRUCKNER: Symphony No. 4 in E flat major, WAB. 104 "Romantic" (2nd version / Nowak edition)

読売日本交響楽団 第610回 定期演奏会

2021 **7.21** (水) 19:00 サントリーホール

S¥7,600 A¥6,600 B¥5,600 C **SOLD OUT**

Subscription Concert No. 610

Wednesday 21st July 2021, 19:00 / Suntory Hall

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時~18時・年中無休)

<https://yomikyo.or.jp/>

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)

独立行政法人日本芸術文化振興会

協力：アフラック生命保険株式会社

ROMANTIC

飯守と読響の壮大な物語、 永遠なるブルックナー。 46年ぶりの《定期》で、 47年ぶりの

「ロマンティック」を振る。



2021 SUMMER

語り継がれる夏が 幕を開ける

語り継がれる夏が、幕を開ける。80歳の巨匠・飯守泰次郎が、46年ぶりに《定期演奏会》に登場。

紫綬褒章や旭日小綬章を受章し、日本芸術院会員を務めるなど、今や日本を代表する指揮者となっている飯守だが、もちろん彼にも若かりし頃があった。飯守の指揮者としてのキャリアは、読響から始まったと言っても過言ではない。彼は1964年24歳の時、読響の「副指揮者」として最初のポジションに就いた。当時、当団はハンス・シュミット＝イッセルシュテットやペーター・マークらドイツ系指揮者を招聘するなど、ドイツ音楽の基礎を築いていた。その後、飯守はドイツやオランダなどでメキメキと頭角を現し、国際的に活躍した。70年から76年まで読響の「指揮者」を務めたが、欧州での活動が忙しくなり、当団を一度離れた。1985年、10年ぶりに「都民芸術フェスティバル」で共演し、更に20年を経て次は2005年に《名曲シリーズ》と日本テレビの「深夜の音楽会」で共演。飯守はその間、90年代に名古屋フィル、90年代末から2000年代に東京シティ・フィルで常任指揮者を務め、熱狂的な“飯守ファン”を生み出した。

飯守 泰次郎 (指揮)

スケールの大きな音楽で聴衆を魅了する日本を代表するマエストロ。1962年桐朋学園を卒業後、64年から70年まで読響の副指揮者を務め、その後76年まで指揮者を務めた。67年からはマンハイム市立歌劇場やハンブルク州立歌劇場などの指揮者を歴任。72年のバルセロナ歌劇場「ワルキューレ」などで同歌劇場のシーズン最高指揮者賞を受賞。70年からはバイロイト音楽祭の音楽助手として数々の公演に携わり、当時のW.ワーグナー総監督から「飯守こそドイツ語で“カペルマイスター”と呼ぶにふさわしく、そこには“マエストロ”という言葉以上に大きな尊敬の念が込められている」と絶大な信頼を得た。90年代以降は名古屋フィル、東京シティ・フィル、関西フィルの常任指揮者を歴任。2014年～18年には新国立劇場オペラ芸術監督を務め、「ニーベルングの指環」などで特に高い評価を得た。現在は仙台フィルの常任指揮者、東京シティ・フィル及び関西フィル桂冠名誉指揮者。これまでにサントリー音楽賞、日本芸術院賞、紫綬褒章、旭日小綬章を受章。12年度文化功労者。日本芸術院会員



した。2010年以降、マエストロと読響はコンスタントに共演。2012年の二期会「パルジファル」公演や17年の新国立劇場「神々の黄昏」公演は、同コンビの強靱なワーグナー・サウンドが聴衆を魅了し、今も語り草になっている。

今回、当初来日予定だったコルネリウス・マイスターの代役として、飯守と読響が久々の《定期演奏会》で邂逅する。メインには、巨匠が得意とするブルックナー作品から交響曲第4番「ロマンティック」を取り上げる。同曲は、飯守が読響「指揮者」時代の1974年7月、33歳の時に《第104回定期演奏会》で演奏しており、47年の歳月を経て、今回が二度目の演奏になる。

飯守のタクトは、読響のドイツ的な深い音色の弦楽器や強靱で筋肉質な金管楽器から、ブルックナー特有の響きを自在に彫琢する。うねる弦楽器、咆哮する金管楽器を熟達な指揮で更に鼓舞し、人知を超えるほどの壮大で宇宙的な音世界を作り出すだろう。

また、前半にはモーツァルトの交響曲第35番「ハフナー」を披露。様式美と独自の美的感覚の絶妙なバランスを保ち、優美な旋律を引き出しながら、終楽章では堂々たるフィナーレを築き上げる。

読売日本交響楽団 第610回 定期演奏会

2021年7月21日(水) 19時開演

サントリーホール

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥7,600 / A ¥6,600 / B ¥5,600 / C **SOLD OUT**

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

■学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。 ■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。 ■マスク着用など、読響の「感染予防対策」にご協力をお願いします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時～18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド

チケットぴあ 0570-02-9999

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017